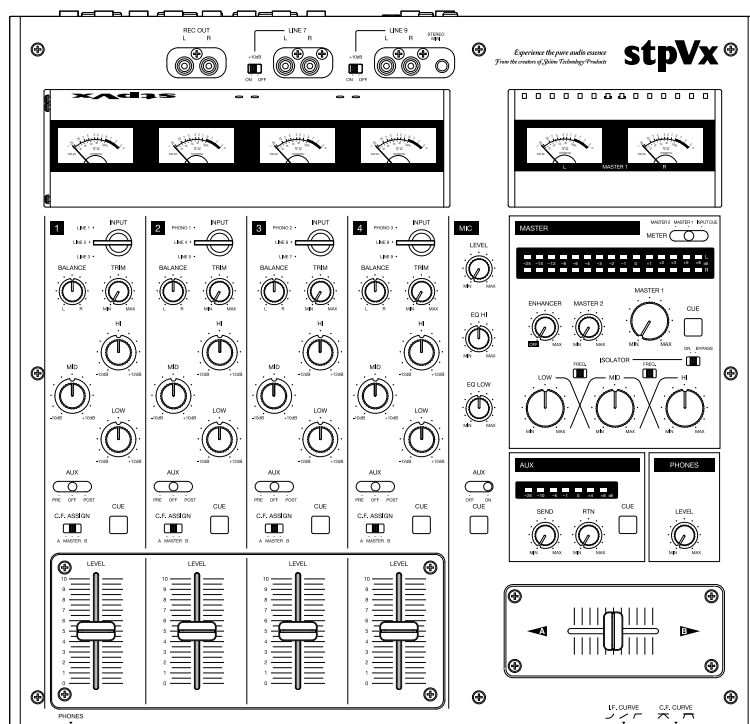


stpVx

Professional DJ Mixer

鳳凰 取扱説明書



ごあいさつ

この度は、stpvestax 鳳凰 Professional DJ Mixer を お買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
本機の性能を最大限に発揮するためにも、また、安全にお使い頂くためにも、この取扱説明書をよくお読み下さい。
特に、「安全上のご注意」は、必ずお読みください。

目次

1. 安全上のご注意.....	2
2. 本機の特徴	5
3. 付属品の確認.....	5
4. 各部の名称と機能.....	6
5. 主な仕様	15
7. 保証とアフターサービスについて	16

1. 安全上のご注意

ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所にかならず保管してください。

— 絵表示について —

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。	図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。
	△ 記号は注意を促す内容があることを告げるものです。	図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

※以下、文章中の「この機器」とは、DJミキサー本体だけでなく、付属の専用電源ボックスも含みます。

 警告	
  電源プラグをコンセントから抜く	 接触禁止 ● 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
	 ● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
	● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 水場での使用禁止	● 風呂場等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	 電源プラグをコンセントから抜く ● 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



警告



- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があります。次のような使い方はしないでください。
 - ・ この機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。
 - ・ この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
 - ・ テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。



- この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。



- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



- この機器の上でろうそくなどの炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対はずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



注意



- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



- オーディオ機器、テレビ、ビデオ機器、ゲーム機、スピーカーを接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量（ボリューム）を最小にしてください。



注意



電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 製品に同梱している専用電源ボックスのみ使用してください。製品に同梱していない電源を使用しないでください。



電源プラグをコンセントから抜く

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、かならず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のためかならず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などをのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。



- 5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店にご相談ください。（ミュージックバーなどの公共な場で使用の場合は1年に1度くらい）機器の内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。



高温注意

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。



- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。かならずプラグを持って抜いてください。



- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

2. 本機の特徴

本機、鳳凰プロフェッショナルDJミキサーは、サウンド機器の開発に長年携わってきた豊富な経験を活かした丁寧な設計と、マイスターによる高い製造技術によって実現しました、オールラウンドタイプの4CHミキサーです。

- DJミキサー史のあらゆるノウハウを集結させ、オリジナルの大型トライダルトランスや選別されたパーツの使用、高度なディスクリートサーキットの採用により、デジタルミキサーでは再現できない、生命を感じるようなアナログサウンドを実現しています。
- 更に高いサウンドクオリティの追求に欠かせないシビアなレベルマッチングがし易いように、全チャンネルとマスターに、業務用VUメーターを採用しました。
- フォノ入力×3、ライン入力×9、の豊富な入力を4チャンネルで構成しており、別にMIC×1チャンネル、そして、AUXステレオセンドリターン機能と、マスターループも装備されています。
出力は、MASTER OUT 1、MASTER OUT 2の独立した音量コントロールが出来る2系統の他に、ボリュームを通さないREC OUTも、別途備わっています。
- 4チャンネル各に、TRIM、LRバランスコントロールと、ポイントと効き具合を十分に吟味した上質な3バンドイコライザーを装備しています。 また、理想と思われる60mmピッチの縦フェーダーとし、そのカーブコントロール機能も充実。
- クロスフェーダーは、非接触式フェーダーとカーブコントロールの最新技術により、縦フェーダーと併用するロングミックスプレイから、切れの良いスクラッチパフォーマンスプレイまでも対応した、オールジャンルスタイルです。
- コントロールバイナルを使用するDVSに対応するため、インターフェイスの接続時に、レコードプレイヤーケーブルの差し替え作業を必要としない、フォノダイレクトアウトジャックを装備しています。
- 2つのライン入力は、Φ6.3標準ステレオフォンで、さらに、別の2つのライン入力には、-10dB/0dBの切り替えスイッチを搭載し、ケータイオーディオのヘッドホンジャック出力の低い音量レベルにも対応。内一つは、Φ3.5ミニステレオフォンでの入力も可能。
- マスター段には、切れの良い3バンドアイソレーターを搭載。Hi-Midと、Mid-Lowの各ディバイディングポイントは、長年研究してきたシビアな各2点の切り替え方式。
- また、エンハンサーエフェクトも搭載し、音の輪郭を引き立たせる独特の仕上げ補正は、アナログサーキットならではの効果が得られます。
- 卓越した製造技術とハイクオリティコントロールの「日本製」です。

3. 付属品の確認

鳳凰プロフェッショナルDJミキサー本体以外に、次の物が同梱されています。

- ・ 専用電源ボックス
- ・ 安全に使用していただくための注意事項を記したプリント。(必ずお読みください)

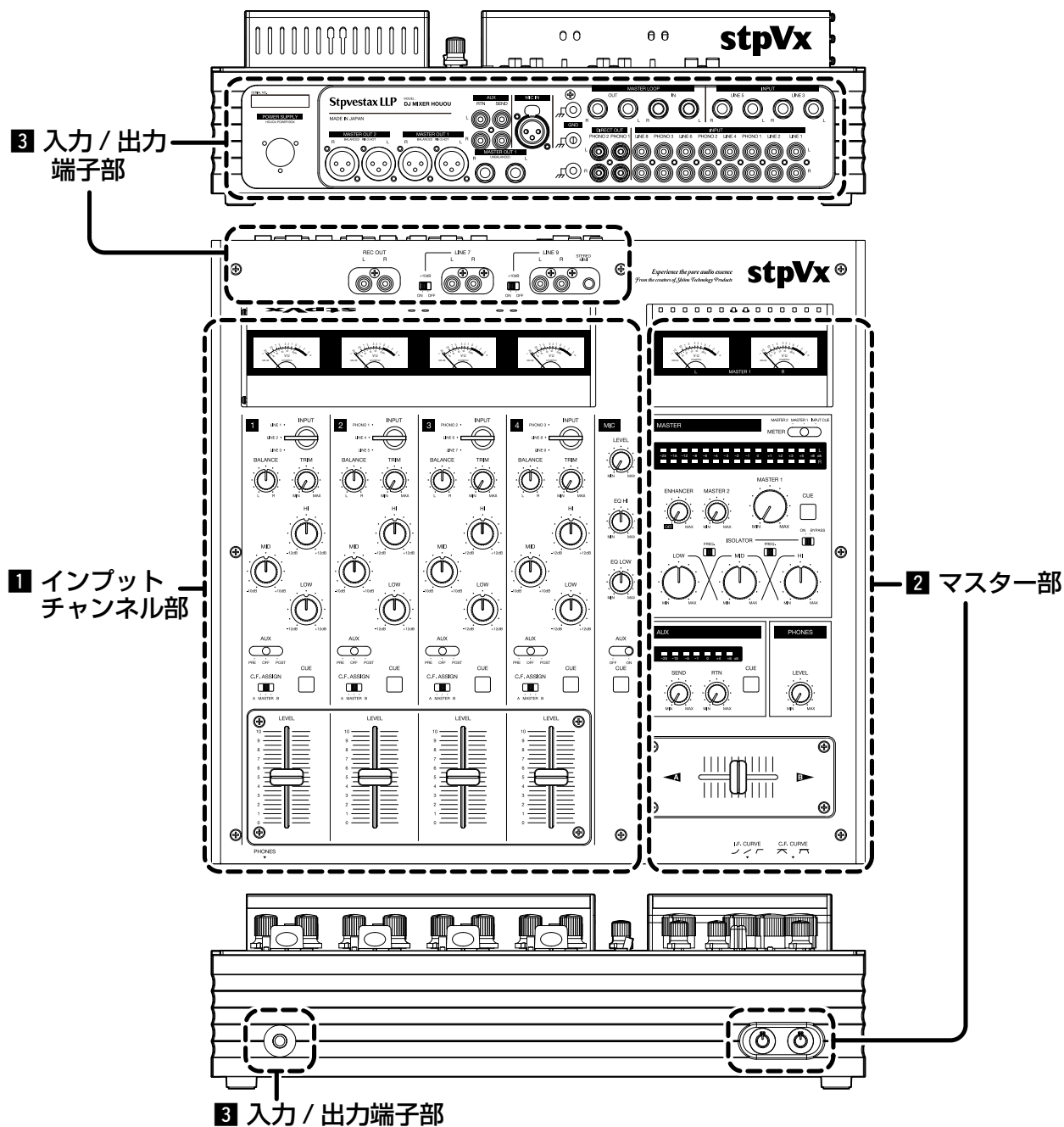
4. 各部の名称と機能

3つの部に分けて、その名称と機能を説明します。

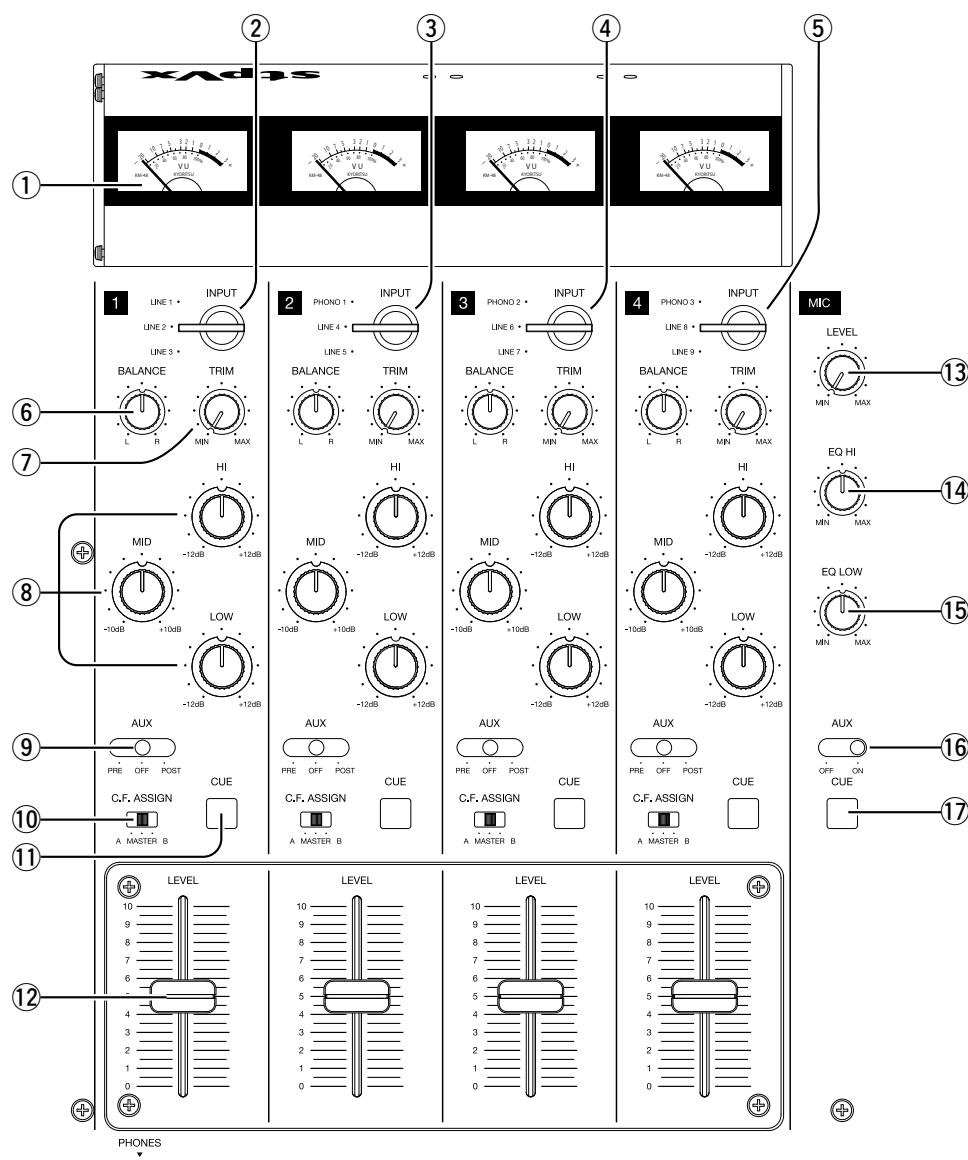
1 インプットチャンネル部

2 マスター部

3 入力 / 出力端子部



1 インプットチャンネル部



① インプットVUメーター

各インプットチャンネルに入力されるレベルを表示するVUメーターです。

② インプットセクター-1

チャンネル1に呼び込む入力を選択するインプットセクターです。LINE1、LINE2、LINE3に接続された入力ソースから、1つを選びます。

③ インプットセクター-2

チャンネル2に呼び込む入力を選択するインプットセクターです。PHONO1、LINE4、LINE5に接続された入力ソースから、1つを選びます。

④ インプットセクター-3

チャンネル3に呼び込む入力を選択するインプットセクターです。PHONO2、LINE6、LINE7に接続された入力ソースから、1つを選びます。

⑤ インプットセクター-4

チャンネル4に呼び込む入力を選択するインプットセクターです。PHONO3、LINE8、LINE9に接続された入力ソースから、1つを選びます。

⑥ LRバランス

各チャンネルの、LRバランスを調整します。マスター部のLEDレベルメーターの表示を「INPUT CUE」にセレクトし、見たいチャンネルの⑪ CUEボタンを押すことで、LEDレベルメーターに表示され、LとRの入力の音量差を確認することができます。

⑦ トリム調整ボリューム

各チャンネルの入力VUメーター①を見ながら、入力音量を調整します。

⑧ チャンネル3バンドイコライザー

各チャンネルの、Hi（高周波域）、Mid（中周波域）、Low（低周波域）を調整します。HiとLowは、-12dB～+12dB、Midは、-10dB～+10dBという加減範囲です。

⑨ チャンネルAUXセンドON/OFFスイッチ

AUX SEND ジャックから、そのチャンネルの音を出力させるかどうかを決めるスイッチです。センター位置でOFF。左（PRE）に倒すと、縦フェーダーの位置に関係なく縦フェーダーマックスの音量で出力され、右（POST）に倒すと、縦フェーダーで決めた音量で出力されます。

⑩ クロスフェーダーアサインスイッチ

そのチャンネルの縦フェーダーを通った音を、クロスフェーダーのA側にアサインするか、B側にアサインするか、または、クロスフェーダーにアサインせずMASTERに送るかをセレクトするスライドスイッチです。

⑪ チャンネルCUEボタン

ヘッドホンモニターしたいチャンネルのCUEボタンを押します。LED点灯時がオン状態で、もう一度押すと、オフ（LED消える）状態です。複数のチャンネルのCUEボタンをONすると、ミックスされてヘッドホンから聴こえます。

⑫ チャンネルフェーダー（縦フェーダー）

そのチャンネルの音量をコントロールします。また、そのカーブは、③⑦ チャンネルフェーダーカーブコントロールで調整することができます。

⑬ MICレベル

マイクの音量をコントロールします。

⑭ MIC イコライザー Hi

マイクの高周波数域を調整します。

⑮ MIC イコライザー Low

マイクの低周波数域を調整します。

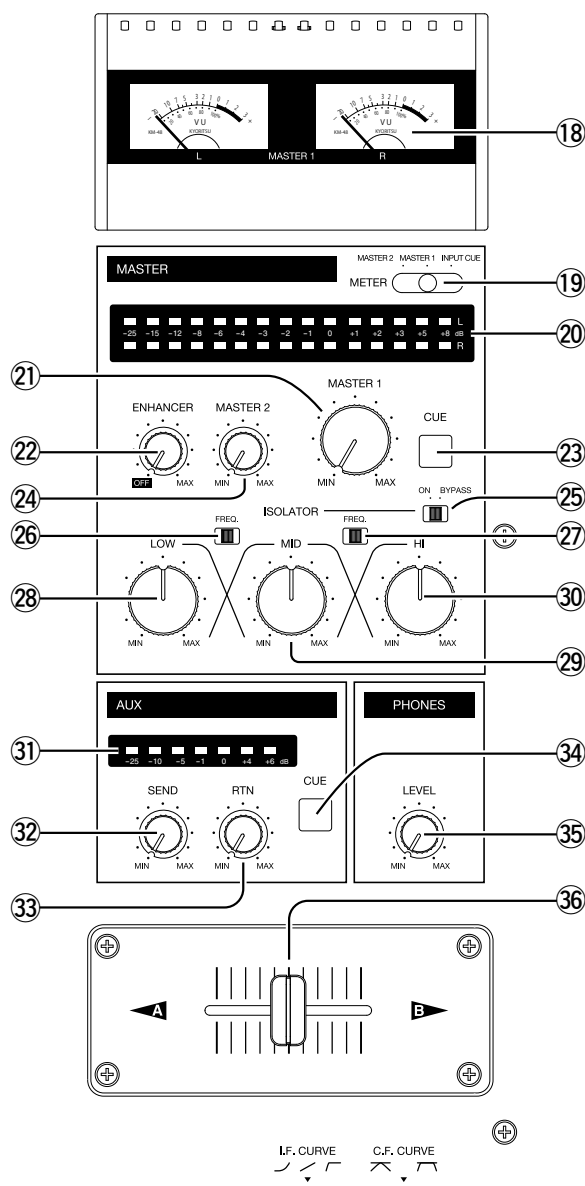
⑯ マイクAUXセンドON/OFFスイッチ

AUX SENDジャックから、マイクの音を出力させるかどうかを決めるスイッチです。

⑰ マイクCUEボタン

マイクの音を、ヘッドホンで聞くときにオンします。オンの時はLEDが点灯します。もう一度押すと、オフになります。

2 マスター部



⑱ MASTER1レベルVUメーター

別々で音量設定できるマスター出力を2つ MASTER1/2を装備し、その内、MASTER1の出力レベルを表示します。

⑲ LEDレベルメーター表示切替

LEDレベルメーターに表示させるソースを選択するスイッチです。左：MASTER2、中央：MASTER1、右：INPUT CUE。INPUT CUEは、4つのチャンネル部のCUEボタンが押されたチャンネルの、縦フェーダーを通す前のレベルを表示します。縦フェーダーを上げて音を出す前に、音量やLRバランスのチェックが出来ます。また、チャンネル部のCUEボタンの選択を交互に押してレベルを表示されることで、チャンネルごとのレベル差を視覚的に確認することも可能です。

⑳ LEDレベルメーター

⑲ で選んだソースのレベルを表示します。

㉑ MASTER1 ボリューム

MASTER1から出力する音量を設定します。時計の午後2時の位置が基準となります。

㉒ エンハンサーエフェクト

音の輪郭を立てるエフェクターのボリュームです。音場補正的に使用する際は、薄くかけるのがポイントです。

㉓ MASTER CUE

ヘッドホンで、MASTER出力をモニターしたいときにオンします。MASTER1/2ボリュームの位置には影響されません。

※ 電源投入時はON状態でスタートします。

㉔ MASTER2 ボリューム

MASTER2から出力する音量を設定します。時計の午後2時の位置が基準となります。

㉕ アイソレーターON/OFFスイッチ

3バンドアイソレーターのオンオフスイッチです。右側がオフ（バイパス）、左がオンです。使用しないときは、バイパス状態をお勧めします。

㉖ Low-Midデバイディングポイント切替

アイソレーターのLowとMidのデバイディングポイントを2種設定しており、その切替スイッチです。

㉗ Mid-Hiデバイディングポイント切替

アイソレーターのMidとHiのデバイディングポイントを2種設定しており、その切替スイッチです。

②⑧ **3バンドアイソレーターLowコントロール**

低周波数域を、 $-\infty \sim +6\text{dB}$ の加減範囲でコントロールします。時計で12時の位置でフラット状態です。

②⑨ **3バンドアイソレーターMidコントロール**

中周波数域を、 $-\infty \sim +4\text{dB}$ の加減範囲でコントロールします。時計で12時の位置でフラット状態です。

③⑩ **3バンドアイソレーターHiコントロール**

高周波数域を、 $-\infty \sim +4\text{dB}$ の加減範囲でコントロールします。時計で12時の位置でフラット状態です。

③① **AUX RTN レベルメーター**

AUXリターンに入力された音量を示すメーターです。

③② **AUXセンドレベル**

4つのインプットチャンネルとMICチャンネルで、AUXレバーがオンになっているチャンネルの音をAUXセンドジャックから出力する音量をコントロールします。

③③ **AUX リターンレベル**

AUXリターンに入力された音をコントロールします。

③④ **AUX CUE**

AUXリターンに入力された信号を、AUXリターンレベルボリュームを上げる前に、ヘッドホンで聴くためのスイッチです。オンの時、LEDが点灯します。もう一度押すとオフになります。

③⑤ **ヘッドホンボリューム**

本体手前左に装備されているヘッドホン出力ジャック (6.3mmステレオフォン) からのレベルをコントロールします。

※ 周囲の音量が大きい場合、しっかりモニターするためにヘッドホンの音量も上げがちになりますが、大きな音量により聴覚障害にならないように十分に気を付けてください。選曲やミックス時に、100パーセントをモニター音に頼らず、VUメーターやLEDメーターでのレベルや、動きのビートも参考にしてください。(聴覚と視覚の併用)

③⑥ **クロスフェーダー**

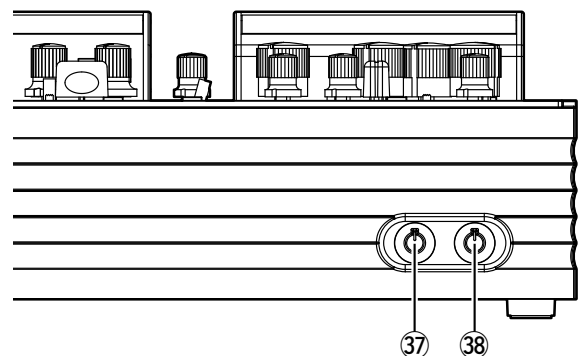
各チャンネルで、Aまたは、Bにアサインされたチャンネル音をクロスフェードします。

③⑦ **チャンネルフェーダーカーブコントロール**

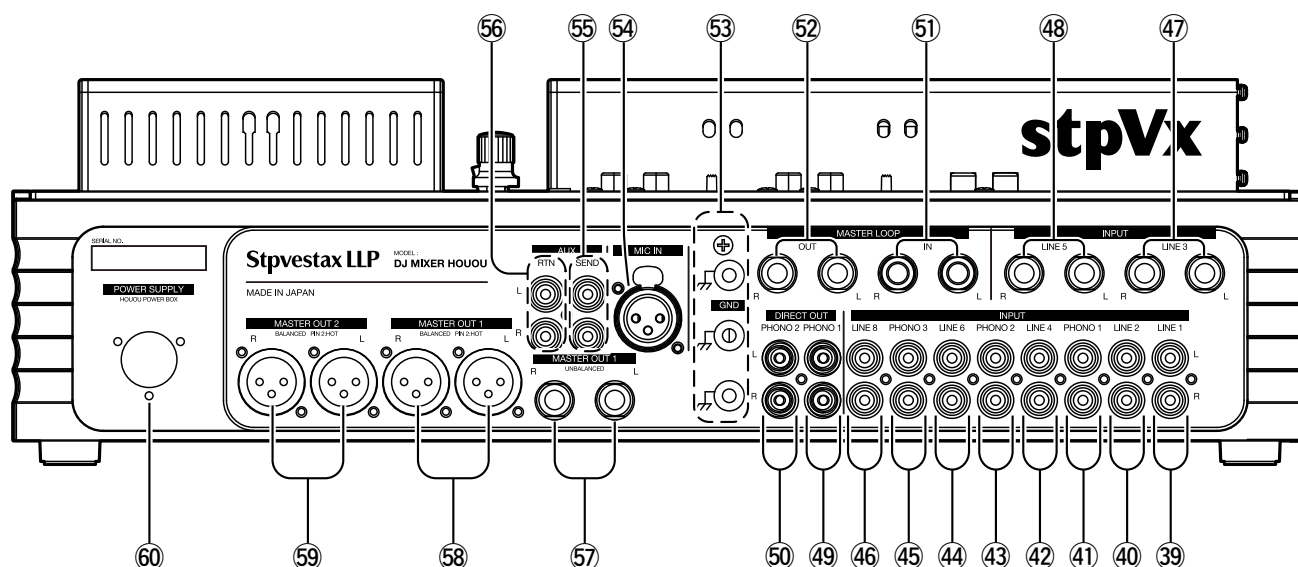
チャンネルフェーダーの立ち上がりのカーブを調整します。左側に回すとAカーブ傾向、センターでBカーブ傾向、一番右側ではすぐに音が立ち上がるきついCカーブの設定となります。

③⑧ **クロスフェーダーカーブコントロール**

クロスフェーダーのカーブ調整ボリュームです。マックスにすると、カーブがきつくなり、端から少しフェーダーを動かしただけで、反対側にアサインされたチャンネルの音が出ます。スクラッチプレイの時の設定です。そして、ミニマムにすると、ゆるやかなクロスフェードカーブとなります。この時、中央の位置の時、A側もB側も、音量が下がらない状態です。クロスフェーダーと縦フェーダーを併用してミックスするスタイルも想定されています。



3 入力/出力端子部



③⑨ LINE 1 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力を入力する端子です。チャンネル1にアサインされます。

④⑩ LINE 2入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力を入力する端子です。チャンネル1にアサインされます。

④⑪ PHONO1 入力端子 (RCAピン)

レコードプレーヤー用の入力端子です (MM型カートリッジ対応)。チャンネル2にアサインされます。(ただし、プレーヤー側にフォノイコライザーが内蔵されていて、ラインレベル出力になっている場合は、本機いずれかのLINE入力端子に接続してください。)

④⑫ LINE4 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力を入力する端子です。チャンネル2にアサインされます。

④⑬ PHONO2 入力端子 (RCAピン)

レコードプレーヤー用の入力端子です (MM型カートリッジ対応)。チャンネル3にアサインされます。(ただし、プレーヤー側にフォノイコライザーが内蔵されていて、ラインレベル出力になっている場合は、本機いずれかのLINE入力端子に接続してください。)

④④ LINE6 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力を入力する端子です。チャンネル3にアサインされます。

④⑤ PHONO3 入力端子 (RCAピン)

レコードプレーヤー用の入力端子です (MM型カートリッジ対応)。チャンネル4にアサインされます。(ただし、プレーヤー側にフォノイコライザーが内蔵されていて、ラインレベル出力になっている場合は、本機いずれかのLINE入力端子に接続してください。)

④⑥ LINE8 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力を入力する端子です。チャンネル4にアサインされます。

④⑦ LINE3 入力端子

(Φ6.3標準モノラルフォン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイスなどのラインレベル出力機器の他、オーディオミキサーや、キーボード・楽器でラインレベル出力のソースを入力する端子です。チャンネル1にアサインされます。(他のRCAピン形状のLINE入力とは、端子の形状が異なるだけです)

④⑧ LINE5 入力端子

(Φ6.3標準モノラルフォン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイスなどのラインレベル出力機器の他、オーディオミキサーや、キーボード・楽器でラインレベル出力のソースを入力する端子です。チャンネル2にアサインされます。(他のRCAピン形状のLINE入力とは、端子の形状が異なるだけです)

④⑨ PHONO1 ダイレクト出力端子 (RCAピン)

PHONO1入力端子に入力された音が、そのままストレートに出力されます。コントロールバイナルでデジタルDJをするためのインターフェイス(DVS)を追加接続する場合、この端子を利用します。レコードプレーヤーのケーブルを本機から抜かずに、ここから出力されるPHONO1の音を、DVSインターフェイスの左側に設置するPHONO入りに接続します。そして、DVSインターフェイスのライン出力は、同じチャンネル2のLINE4またはLINE5に入力すると、分かり易いのでお勧めします。DVSの使用と、通常の音楽の入ったアナログレコードをかける場合の切り替えを、チャンネルの入力切替レバーの操作で、即座に選択できます。

⑤⑩ PHONO2 ダイレクト出力端子 (RCAピン)

PHONO2入力端子に入力された音が、そのままストレートに出力されます。コントロールバイナルでデジタルDJをするためのインターフェイス(DVS)を追加接続する場合、この端子を利用します。レコードプレーヤーのケーブルを本機から抜かずに、ここから出力されるPHONO2の音を、DVSインターフェイスの右側に設置するPHONO入りに接続します。そして、DVSインターフェイスのライン出力は、同じチャンネル3のLINE6またはLINE7に入力すると、分かり易いのでお勧めします。DVSの使用と、通常の音楽の入ったアナログレコードをかける場合の切り替えを、チャンネルの入力切替レバーの操作で、即座に選択できます。

⑤① マスターループ入力端子

(Φ6.3 標準モノラルフォン)

本機は、最終出力直前に外部エフェクター(アイソレーターやイコライザー、ディレイ、リバーブなど)を接続できるようになっています。⑤②から出力される音を、外部エフェクターに入力させ、外部エフェクターから出力された音を、この⑤①に戻します。

⑤② マスターループ出力端子 (Φ6.3 標準モノラルフォン)

本機は、最終出力直前に外部エフェクター(アイソレーターやイコライザー、ディレイ、リバーブなど)を接続できるようになっています。この端子から出力される音を、外部エフェクターに入力させ、外部エフェクターから出力された音を、この⑤①に戻します。

⑤③ アースターミナル

レコードプレーヤーのアースを接続します。本機は3台までのレコードプレーヤーが接続できますので、3つのターミナルを装備しています。アースを接続しないと、ノイズが発生してしまいますのでご注意ください。

⑤④ マイク入力端子(XLRコネクター)

マイクからのケーブルを接続します。

⑤⑤ AUX 出力センド端子 (RCAピン)

特定のチャンネルだけに外部エフェクター（ディレイ、リバーブ、サンプラーなど）をかける時に便利な、AUXセンドリターン機能を搭載しているAUX出力端子です。外部接続する機器の入力端子に接続してください。

⑤⑥ AUX リターン入力端子 (RCAピン)

特定のチャンネルだけに外部エフェクター（ディレイ、リバーブ、サンプラーなど）をかける時に便利な、AUXセンドリターン機能を搭載しているAUX入力端子です。外部接続する機器の出力端子に接続してください。

⑤⑦ MASTER 1 アンバランス出力端子 (6.3 標準モノラルフォン)

②① MASTER1ボリュームで設定した音量でミックスされた最終音が、アンバランスで出力されます。

⑤⑧ MASTER 1 バランス出力端子 (XLR 2番ピンHOT)

②① MASTER1ボリュームで設定した音量でミックスされた最終音が、バランスで出力されます。

⑤⑨ MASTER 2 バランス出力端子 (XLR 2番ピンHOT)

②④ MASTER2ボリュームで設定した音量でミックスされた最終音が、バランスで出力されます。

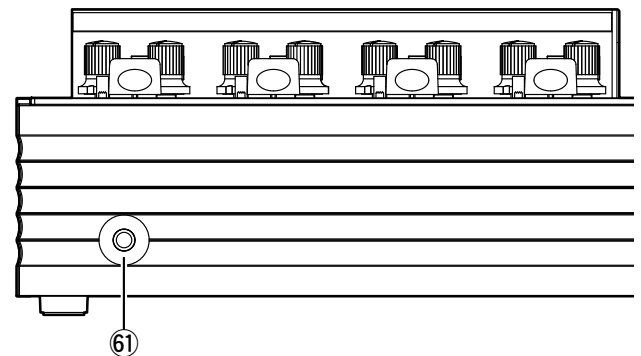
⑥① 電源供給端子

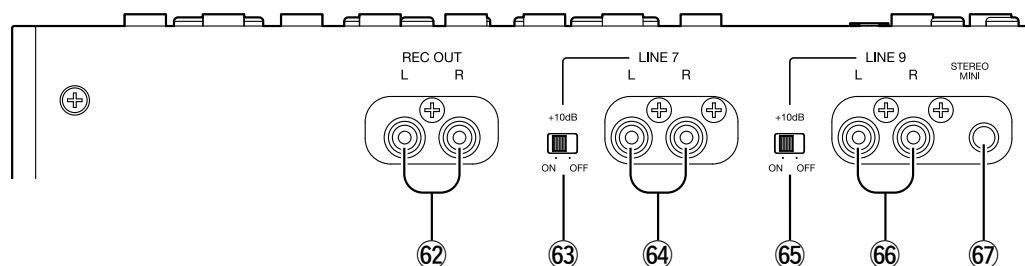
専用の電源ボックスを接続します。

※ 端子・プラグの形状が同じでも、同梱の専用電源ボックス以外は、絶対に接続しないでください。機材を損傷する恐れがあるだけでなく、火災発生などにより大変危険な状況になります。

⑥① ヘッドホン端子 (Φ6.3 標準ステレオフォン)

CUEボタンを押されたチャンネル、または、ソースを、ヘッドホンで聴くことができます。③⑤ ヘッドホンボリュームで音量を調整します。





⑥2 REC 出力端子

マスター出力と同じ音出力されます。ただし、マスターボリュームの示す位置とは関係なく、午後2時の方向を指す音量レベルで出力されます。イベント時のミックスをレコーディングする時に便利です。

⑥3 LINE7入力アッテネーター切替えスイッチ

LINE7に入力された音のアッテネーター値を切替えます。通常のLINE出力機器を接続する場合は、OFFに設定し、ケータイオーディオやスマートフォンなどの小さな出力音を入力する場合は、+10dBをONに設定してください。

⑥4 LINE7 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力の機器の他に、ケータイオーディオやスマートフォンなどのレベルが小さな音を入力する端子です。チャンネル3にアサインされます。

⑥5 LINE9入力アッテネーター切替えスイッチ

LINE9に入力された音のアッテネーター値を切替えます。通常のLINE出力機器を接続する場合は、OFFに設定し、ケータイオーディオやスマートフォンなどの小さな出力音を入力する場合は、+10dBをONに設定してください。

⑥6 LINE9 入力端子 (RCAピン)

CDプレーヤーやオーディオインターフェイス出力などのラインレベル出力の機器の他に、ケータイオーディオやスマートフォンなどのレベルが小さな音を入力する端子です。チャンネル4にアサインされます。ただし、⑥7 ミニステレオ端子にプラグが差されている場合は、遮断されて入力されません。

⑥7 LINE9入力端子 (Φ3.5ミニステレオフォン)

ミニステレオフォン対応の入力端子です。⑥6 RCAピン端子と同時に、この端子にも機器を繋いだ時は、このミニステレオフォンが優先され、⑥6 RCAピン端子の音は遮断されます。チャンネル4にアサインされます。

5. 主な仕様

入力部 (規定入力レベル/インピーダンス)

CH1

LINE 1、2 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
LINE 3 IN φ6.3 端子×2 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ

CH2

PHONO 1 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-52dBv(1kHz)/47kΩ
LINE 4 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
LINE 5 IN φ6.3 端子×2 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ

CH3

PHONO 2 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-52dBv(1kHz)/47kΩ
LINE 6、7 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ

CH4

PHONO 3 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-52dBv(1kHz)/47kΩ
LINE 8 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
LINE 9 IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
φ3.5ステレオ端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
MIC IN XLR端子 (バランス)	-50dBv/3.3kΩ
AUX RTN IN RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ
MASTER LOOP IN φ6.3 端子 ×2 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ

出力部 (規定出力レベル/対応負荷インピーダンス)

MASTER OUT1 XLR端子×2 (バランス)	+4dBv/600Ω以上
MASTER OUT1 φ6.3 端子×2 (アンバランス)	0dBv/10kΩ以上
MASTER OUT2 XLR端子×2 (バランス)	+4dBv/600Ω以上
REC OUT RCAピン端子 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ以上
PHONO 1,2OUT RCAピン端子 (アンバランス)	-52dBv/10kΩ以上
AUX SEND RCAピン端子 (アンバランス)	0dBv/10kΩ以上
MASTER LOOP OUT φ6.3 端子×2 (アンバランス)	-10dBv/10kΩ以上
HEAD PHONE OUT φ6.3 ステレオ端子	120mW (最大出力) /8Ω以上

周波数特性(定格入力/定格出力時)

LINE IN → MASTER OUT	20 ~20 kHz/+1.0dB -3dB
----------------------------	------------------------

ノイズレベル(TRIM 2時 IFVR MAX MASTERVR 2時)

MASTER OUT	2mV以下
------------------	-------

全高調波歪(定格入力/定格出力時)

1kHz LINE IN → MASTER OUT	0.5%以下
---------------------------------	--------

電圧電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

95W

外形寸法

本体：430mm(W) × 91mm(H) × 410mm(D)

(メーターハウジング含まず)

430mm(W) × 120mm(H) × 410mm(D)

(メーターハウジング含む)

電源部：125mm(W) × 74mm(H) × 183mm(D)

重量

本体：11 kg

電源部：2.5 kg

(注) 仕様及び外観は、改良改善のため予告なく変更することがあります。

7. 保証とアフターサービスについて

(1) 保証書

プリントの保証書はございません。販売店から、または、ユーザーから、製造元の「STPVESTAX LLP」(stpvestax.com) への連絡によって、お買い上げ日とオーナー情報、及び、本機シリアルナンバーが、「STPVESTAX LLP」に登録され、管理されます。(個人情報として大切に扱われます)
オーナーが変更する場合は、旧オーナーと新オーナー両者からの申告により保証期間が継続されます。

保証期間は、お買い上げの日から1年です。

※最初のオーナーのお買い上げ日からです。

※保証期間であっても、修理のための運賃はオーナー様負担となります。

(2) 修理に関するご相談

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店、または、「STPVESTAX LLP」(stpvestax.com) へお問い合わせください。

(3) 修理を依頼されるとき

故障した時は、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼下さい。

(保証期間中であっても、故障内容によって有償となる場合がございます)

保証期間中は、保証規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。見積りが必要な場合は、あらかじめお伝え下さい。ただし、見積りを算出する場合は、見積手数料が発生しますが、その後の判断で修理をGOする場合、その修理代に含まれます。

何らかの理由で、ご購入された販売店が無くなった場合は、「STPVESTAX LLP」(stpvestax.com) にご相談ください。

(4) 修理対象外製品について

本機ケースを開けて、改造した場合や、故障させた場合、状態によっては、修理を受けない場合や、修理が出来ない場合があります。また、ドリンクなどの液体をこぼした場合は、一旦は使えるようになって、その後、液体による劣化が進み、再び故障する場合がありますので、修理できても修理後の故障再発保証はできません。

(5) 修理期間中の代替え品について

修理期間中の、代替え品の用意は、いかなる場合も、一切行っておりません。

業務用として使用する場合は、必要に応じて、予備機のご購入をお願い致します。

ご不明な点や、他情報を知りたい時は、まず、オフィシャルホームページをご覧ください。

www.stpvestax.com